My Town Topics

みんなの心をひとつにして勝利を引き寄せる！

第23回まつやま綱引き大会
## そーれ、引っ張れひっぱれ！（松山）

12月9日、松山B＆G海洋センターを会場に、「まつやま綱引き大会」が開催され、小学生の部5チーム、一般女子の部6チーム、一般男子の部7チームが参加し、約200人が熱戦を繰り広げました。

勝利のために綱を引っ張る姿は真剣そのもので、体をのけぞって倒れそうになるほど力を込めている人も見られました。会場内には、「頑張れ！」「ファイト！」などと大きな声援が飛び交い、その声援を力に子どもから大人まで全力で競い合っていました。

甘くておいしいスイートポテトをほおばります

大貫幼稚園・小学校交流事業「さつまいもまつり」
## これからもよろしくね！（田尻）

11月27日、田尻地域大貫小学校体育館で、大貫小学校1・2年生の児童39人と大貫幼稚園の園児57人が交流する「さつまいもまつり」が開催されました。

園児たちは、児童が準備した釣りゲームやビー玉ゲーム、ボウリングなどを楽しみながら、自分たちで収穫したさつまいもを使って児童が作ったおいしいスイートポテトをごちそうになりました。この日は子どもたちにとって、幼稚園と小学校の垣根を越えて、友情が深まった1日となったようです。

12月6日、東大崎地区公民館を会場に「笑顔でお達者・東方落語」が開催されました。東方落語は東北弁で語られる民話などをテーマにした落語で、この日は真打の川野目亭南天さんが出演し、出身地の岩手県遠野地方に伝わる民話や江戸落語などを東北弁で語りました。

抱腹絶倒のお話に、約150人が集まった会場は終始笑いの渦。「笑いは体にうんといいんだよ～、笑いじわができるまで笑わいん」という川野目亭南天さんのお話に、東北弁の良さをしみじみと感じた時間でもありました。

川南地区公民館合同事業「笑顔でお達者・東方落語」
## 笑いはすべての特効薬！（古川）

笑いじわが増えた分だけ元気も増えましたね！

11月下旬から2月上旬、岩出山地域の「あ・ら・伊達な道の駅」が、夕方を過ぎるとまばゆく輝くイルミネーションで彩られます。

国道47号に面した街路樹は美しい光を放ち、1番高い木は赤・青・緑など色とりどりの光がともります。また、正面の駐車場から道の駅館内への入り口までは光のアーチが続き、訪れた人を迎えてくれます。冬期限定のイルミネーションは、雪が降ると一層幻想的な風景となります。ぜひ1度、足を運んでみてはいかがですか。

「あ・ら・伊達な道の駅」イルミネーション
## 夜を彩る光の駅（岩出山）

美しい光景に心がいやされます

優しい明かりがともるツリーが玄関で迎えてくれます

鹿島台総合支所でクリスマスツリー点灯式
## 心がこもった手づくりツリー（鹿島台）

12月4日、鹿島台総合支所で、鹿島台小規模作業所「トマト」の通所者6人が制作し、贈呈したクリスマスツリーの点灯式が行われました。

正面玄関に飾られたのは、高さ約1.5mのきれいに装飾された大きなツリー。このほかに、各階には高さ約30cmのミニツリーが飾られています。松ぼっくりを材料にして、きれいな円錐形になるように通所者の皆さんが時間をかけて丁寧に制作したツリーが、クリスマス気分を一層盛り上げてくれました。

バーナーの火を使いガラスを
溶かして作りました

女性講座「三本木とんぼ玉教室」
## キラキラ輝くガラスの魅力（三本木）

12月6日、三本木公民館を会場に、とんぼ玉工房「K・House」の一條恵子さんを講師に迎えて「とんぼ玉教室」が開催されました。

とんぼ玉とは、穴の開いたガラス玉に、色のついたガラスを溶かしてさまざまな模様をつけた玉のことです。参加した皆さんは、なかなか思うような形にならず苦労していましたが、時間がたつにつれて作業にも慣れ、講座の終了時間を過ぎていることも気づかないほどの熱中ぶりで思い思いの作品を作りました。

鳴子温泉郷の豊富な泉質をパネリストも絶賛

交通新聞社 中村編集長から横綱
認定証が授与されました

鳴子温泉郷「旅の手帖」温泉番付横綱認定を祝う会
## 鳴子温泉郷が東の横綱に認定（鳴子温泉）

交通新聞社発行の月刊「旅の手帖」7月号の「青春18きっぷで行く温泉番付」で温泉評論家八岩（やついわ）まどかさんの行司のもと鳴子温泉郷が東の横綱に認定されました。

12月1日、この快挙を祝して鳴子温泉郷「旅の手帖」温泉番付横綱認定を祝う会が鳴子スポーツセンターおよび鳴子公民館を会場に開催されました。

第1部では、「温泉地をネットワークする」と題した八岩まどかさんの記念講演、「温泉を通した地域づくり」と題したパネルディスカッションが行われ、国内11種のうち9種もの豊富な泉質を持つ鳴子温泉郷の可能性について、約250人が熱心に聞き入りました。

第2部の懇親会には、約100人が出席し、横綱認定証の交付、横綱認定にあやかっての相撲甚句の披露、浜風親方（元関取五城桜）のトークなどたくさんの催しが行われました。大いに盛り上がった会場では、温泉横綱の名誉をこれからも守り続けようと、出席者全員の士気が上がったようすで、交通新聞社の中村直美編集長は「予想以上の反響と大崎市の熱気に驚きました」と語っていました。